

## 「世界遺産の地で感性を磨く修学旅行のあり方」

クラス別茶会（京都・奈良）と献茶式（奈良「春日大社」）を通して

指導 上三川町立上三川中学校長 戸倉 文夫  
教諭 仁平 和希

はじめに

- 1 本校で伝統文化「茶道」を、なぜ教育活動に取り入れたか。

研究の内容

- 1 地域と学校の実態
- 2 研究の概要
- 3 取り組みの実際
- 4 成果と課題

おわりに

## 第45回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会

### 大会主題 「世界遺産の地で感性を磨く修学旅行のあり方」

#### クラス別茶会（京都・奈良）と献茶式（奈良「春日大社」）を通して

栃木県河内郡上三川町立上三川中学校長 戸倉 文夫  
教諭 仁平 和希

はじめに

1 本校で伝統文化「茶道」を、なぜ教育活動に取り入れたか。

(1) 学校の実情から

課題克服と地域から学校の信頼回復を図り、生徒の良さを引き出し、さらに学校の力を高めるため

(2) 「生きる力」を育てるため

第15期中央教育審議会第1次答申より、第1部「今後における教育の在り方」(3)から「体験活動は、[生きる力]をはぐくむ基盤」として体験活動の重要性を述べている。

(3) 国の教育の理念から（時代の要請）

教育基本法より（平18 12・22）教育の目的及び理念（教育の目的）の第二条の五から、伝統と文化を学び、尊重していくことは、国際人としての日本人を育てることにつながるとともに、豊かな心を育てていくためには今後ますます必要なものとなってくるものと考えられる。

以上、学校の実情、生きる力の育成、我が国の教育の理念の3点から、本校の教育活動に伝統文化「茶道」を取り入れ、修学旅行で日頃の取り組みを実践することとした。

研究の内容

1 地域と学校の実態

(1) 本地域の実態

本地区は、都市近郊にあり、近年、町北部に大型ショッピングモール、また北関東道のインターチェンジができるなど商業化が進むとともに交通の要衝となっている。

生徒は、概して素直で勤勉であり、活力に溢れている。

(2) 本校の生徒の実態

活力があり、積極性があるが、生活面に課題をもっている保護者が多い。問題行動が多発した時期もあったが、伝統文化「茶道」を教育活動に取り入れることにより、課題解決の大きな力となりつつある。また、深く「茶道」を学ぶことにより、生徒一人一人の内面からの陶冶がなされつつある。

2 研究の概要

「茶道」を授業で校長が指導し、学年末には、「クラス別茶会」を実施している。さらに「茶道愛好会」を中心に、町文化祭等で茶会を開き、また修学旅行では毎年参加者全員での「クラス別茶会」「交流茶会」を実施している。これらの活動を通し、生徒の心を耕し、学校の質を高め、さらに今年度は、「世界遺産」への献茶式体験で、生徒の感性を磨いた。

### 3 取り組みの実際

#### (1) 研究のねらい

日本に古来から伝わる伝統文化「茶道」を教育活動（授業、授業外活動）に取り入れることにより、生徒の心を耕し、高め、生徒のよさを伸ばす。

#### (2) 取り組みの内容

##### ア 「茶道」の授業

各クラス年間10時間程度を各学年の「総合的な学習の時間」の共通指導事項として取り組んでいる。

茶道の授業の内容としては、各学年共通で、なぜ茶道を学ぶのかを毎時間説明してから授業に入ることにしており、単なる所作だけでなく、生徒の心を内面から変容させるための手だてを工夫している。（「和敬清寂」の心を全員に持たせる）

また、所作については、立ち方、座り方、歩き方から始まり、お辞儀の仕方（真・行・草）、帛紗のたたみ方、棗、茶杓の拭き方、三段の構え、茶筌とうじなど点前の基礎を徹底して身に付けさせることにより、道具を大切に扱うこと、他の人のことを考えた行動をすることなど茶道の授業で学んだことを実際の生活に生かすことを目標としており、点前全部が出来ることを目標とはしないこととした。実際に、年間10時間程度ではお点前を覚えるまでは難しい。しかし、生徒の代表（茶道愛好会に所属しているもの）は、完全に点前まで出来るようになっており、「クラス別茶会」では、茶道愛好会の会員がお点前をし、生徒全員が、お運びを実践している。

「お運び」の稽古については、菓子の運び方、茶の運び方を交代で実践し、心を込めて運ぶことがいかに大切かを実際の茶会の場面で体験させている。また、「お客ぶり」についても、お茶を点ててくれた人への感謝の気持ちや隣の人への気遣いとしての所作、言葉なども覚えさせ、茶会の時だけでなく、普段から「お先に。」などの相手を思いやる言葉が自然に出てくるように指導している。



（右：1年生の「茶道」の授業）

##### イ 「町文化祭」、「町中学校総合文化祭茶会」での「茶会」の実施

毎年、行われる町の文化祭に、「茶道愛好会」の会員が茶会を開いている。

中学生の点前を楽しみに多数の方が町内外から来場して頂き、生徒たちの励みになっている。また「上三川町中学校総合文化祭」では、新しくできた町営のスポーツ施設内で、書道や絵画の展示とともに、茶会を開き、町内の中学生や地域の方々にも中学生の茶道での所作やすばらしさをアピールしている。

#### ウ 地域との連携で「野点茶会」

学校で、茶道の授業を進め、また町文化祭で、茶会を開くなど、広く一般の方に茶を飲んで頂き、学校の茶道の取り組みが知られてきたとき、地域の方から城址公園で茶会を開いてはどうかという提案があり、実施したところ、多数の町民に来て頂き、自然の中での茶会の良さを満喫して頂いた。来場者のアンケートにも毎年開催してほしいという要望があった。

(野点茶会の様子)



#### エ 修学旅行先で「クラス別茶会」を実施

平成18年度から、3年生の京都・奈良方面への修学旅行で、宿泊先でクラス別茶会を毎年、実施している。平成18年度は、本校が茶道を「総合的な学習の時間」に取り入れてから初年度だったこともあり、希望者のみが茶会に参加した。平成19年度は、京都市教育委員会の先生方もお招きしての茶会となった。生徒のきちんとした点前、また参加した生徒の客ぶりなど

(クラス別茶会での生徒の点前)



生徒の「茶道」に対する姿勢に高い評価を頂いた。

毎年、総合的な学習の時間の集大成としてクラス別茶会を実施しているが、生徒は古都の雰囲気を味わいながら、落ち着いた気持ちで茶会に参加し、心ゆくまで古都の情緒に浸ることができ、その後の宿舎での生活も落ち着いて過ごしている。

修学旅行は、その特質上どうしても寺社仏閣をいくつも忙しくまわる傾向にあるが、一日の最後に茶会を開き、心を落ち着かせ、自分を省み、一日を思い出す時間を持つことは、修学旅行に深みを持たせるとともに、感性をさらにとぎすませる貴重な時間になると考えられる。生徒へのアンケートの回答にも「友達と一日の最後にゆっくりした時間を持てたことはとてもよかった」と述べている。

友の点てる茶を飲みながら日中の出来事を思い出しじっくりと省みる時間は、感性を育てるのみならず、茶道の所作を通じての規範意識の確立にも繋がり、次の日の団体行動へも必ずプラスになる。

実際、平成18年度の修学旅行から毎回、見学先で態度に関してお褒めの言葉を頂いており、茶道(茶会)が確実に生徒の心に変化を生じさせ、また規範意識や物腰、態度に良い影響を与えている。



さらに感性が高まるよう今後もクラス別茶会を継続させて行きたい。

#### オ さらに「交流茶会」へと深化

平成20年度は、京都市立下京中学校の生徒と職員の皆様に宿泊先に来ていただき、交流茶会を持った。そして、平成21年度は、修学旅行初日に、京都市立西京高校附属中学校を訪問しての交流茶会を実施した。茶室での交流茶会、そしてホールの立礼席での交流茶会実施し、お互いの茶道に対する意見を交換するとともに、親睦を図り、意義ある交流茶会となった。



(京都市西京高校付属中と交流茶会)

#### カ 世界遺産への献茶式と発展

修学旅行二日目は、世界遺産である奈良の春日大社で、修学旅行生123名全員による、自分達の手作りの棗を使っての献茶式を行った。校長が代表して献茶し、生徒は、棗、茶杓を校長にあわせて一斉に心を合わせて清め、全員が感動のうちに献茶式を滞りなく実施できた。



(献茶式開始の儀式)



(全員で帛紗をたたみ、棗を拭く)



(茶を点てて神官に差し上げ、控える)

#### 「クラス別茶会」、「交流茶会」、「献茶式」を実施しての生徒の感想

##### 「クラス別茶会」に参加した3年生の感想(抜粋)

- ・友達とともに茶会が出来て、とても楽しかった。(旅館の方とも一緒できた)
- ・京都の旅館で茶道が出来て良かったです。
- ・雰囲気もいつもと違って良かった。
- ・みんなで静かな時間を過ごせて良かったです。
- ・夜の茶会は、なんか不思議な感じがした。
- ・本格的な感じがした。(学校でやるときとは違う気がした。)
- ・普通の修学旅行では、出来ないことが出来たので良かった。(多数)

「交流茶会」に参加した生徒の感想

- ・他の中学校との交流茶会が出来て、とても感動したし、誇りを感じました。
- ・みんな自分達より下の学年なのにしっかりしていて驚きました。
- ・校内に茶室があって立派な学校でした。
- ・西京高校と普通では出来ない茶会が出来て良かったです。今後も西京高校の生徒たちを見習い、練習をがんばっていきたいと思います。
- ・すごくきれいな茶室があってうらやましかったです。

「献茶式」に参加した3年生の感想（抜粋）

- ・「世界遺産に献茶ということで感動しました。」(多数)
- ・とても誇りを感じた。
- ・すごく清々しい気持ちになりました。
- ・一生に一度しかない貴重な体験ができた。(多数)
- ・最初で、最後かもしれない献茶式が出来て良かった。
- ・献茶式を行って緊張したけれど、終わった後、落ち着いた気分になった。
- ・神が、僕たちみんなを見てくれている感じがしました。
- ・時間は、校長先生のおかげでとても短く、とても思い出に残るものになった。
- ・とても安らかな気持ちになったり、改まった気持ちになった。
- ・参加しませんでしたでしたが、とても厳かな気持ちになりました。

#### 4 成果と課題

##### (1) 成果

日本の伝統文化「茶道」を授業で学び、さらに授業の延長である修学旅行で、「交流茶会」、「クラス別茶会」に参加したことにより、茶道の良さ、楽しさを体感出来た。

世界遺産である奈良「春日大社」で自分達の作った菓を使い、厳かな中で献茶式に参加したことにより、修学旅行が、より深く意義あるものとなり、感動体験を通して、各自の感性が磨かれた。

##### (2) 課題

校長が、どのような方策により、次の学校経営者に茶道の有効性を伝え、生徒に根付いた伝統文化「茶道」の良さを絶やさないようにしていくかが課題である。

おわりに

伝統文化「茶道」を教育活動に取り入れたことにより、一人一人の心が耕され、ひいては学校課題の解決につながるなど多くの成果もたらされた。さらに修学旅行での他校との「交流茶会」や「世界遺産」である「春日大社」で献茶式を行ったことは、生徒の心に、得難い体験と感動をもたらすことができ、一人一人の感性が磨かれ、各自の品格が高められた。

今後は、継続して「茶道」を教育活動に取り入れ、伝統文化「茶道」の良さを地域に発信し続けるとともに、生徒の心を耕し続けていきたい。

また、今後出来る限り、学旅行先での「茶道」体験に継続して取り組み、生徒の感性を磨き続け、伝統文化「茶道」を学校文化の基盤として定着させ、学校の品格を高めていきたい。